

東京後楽ロータリークラブ週報

The Rotary Club of Tokyo Koraku Weekly Report



ロータリーは
世界をつなぐ

「3Cで、新たな時代を創ろう」
～Chance・Challenge・Change～
「ロータリーは世界をつなぐ」

2019年～2020年度 会長
中村 才博

2019年～2020年度 国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー

ロータリー親睦活動月間

2020年6月30日発行 (No.945)

第945回 例会

「クラブフォーラム」「ハンマータッチ」

CLUB NEWS

- ◆ 昨年8月からフランスへ青少年交換派遣学生として留学していた木村真理子さんが、帰国報告に来会されました。新型コロナウイルス感染が全世界で猛威を振るう中、早めの帰国となってしまいましたが、それでも充実した学生生活の報告をして頂きました。
- ◆ 2020～21年度北分区ガバナー補佐より以下の通り、2020年10月30日(金)開催予定の北分区IMを中止するとの連絡がありました。
「緊急事態宣言が解除されたとはいえ新型コロナウイルス感染者が首都圏では毎日確認されており予断を許さない状況が続いております。北分区合同例会およびインターシティミーティングにつきましては例年400名を超える出席者を数えます。会場であるホテルの協力を得ましてもソーシャルディスタンスの確保は困難でロータリアンの健康と国際ロータリー理事会の決議を踏まえまして開催を見合わせる事が最善と考えます。毎年開催されている行事ではございますが、開催を中止させていただければと存じます。」(抜粋)
- ◆ 2020～21年度北分区ガバナー補佐並びに北分区予選会実行委員長より以下の通り、2020年10月2日(金)地区懇親ゴルフ大会「北分区予選会」を中止するとの連絡がありました。
「北分区ゴルフ予選会を10月2日(金)開催とお知らせをいたしておりましたが、新型コロナウイルスの影響により北分区インターシティ・ミーティングも中止が決定されたこともあり、北分区ゴルフ予選会においても中止とさせていただきます事と致しました。
参加を楽しみにされていた皆様には、大変申し訳ございませんが、何卒ご理解の程お願い申し上げます。」
- ◆ 会員名簿作成の件
名簿作成に当たり、変更がある会員は、事務局までメールあるいはFAXでお知らせ願います。

前回例会

第944回例会

「クラブフォーラム」

出席状況

第944回例会

出席 29名 欠席 16名
ビジター 2名 ゲスト 1名
原英達氏・仁平範昭氏(東京小石川)
木村真理子さん(青少年交換留学生)
出席率:78.57% 前例会修正後:80.49%

ニコニコBOX

原英達氏(東京小石川):中村会長、本多幹事、1年間ご苦労様でした。
小出会員:2年半のロータリー活動。楽しかった事。緊張した事。学ぶ事が沢山ありました。仲間に入れていただき感謝です。ありがとうございました。
佐藤会員:皆様の元気な顔を見て安心しました。68歳の誕生日を祝っていただき、ありがとうございました。
工藤会員:誕生日のプレゼント、有難うございました。梅が大好きな妻が喜んでおります。
ミリオンマイルズ:1,557円
本年度合計:830,449円

例会案内

7月7日 「新年度初例会」

7月14日 「本年度委員長の事業計画発表」①

2020年度国際大会のご案内

開催日: 2021年6月12日～16日

開催地: 台北(台湾)

RI日本事務局より資料が届いております。

TEL: 03-5940-3355 FAX: 03-3947-4010 E-Mail: koraku@mint.ocn.ne.jp

例会 毎週火曜日12時30分 / 東京ドームホテル 電話: 03-5805-2111

事務局 〒112-0014 文京区関口2-10-8 藤田観光(株)別館内

会長 中村才博 / 幹事 本多信行 / 会報委員長 木津久徳

URL <http://www.korakurotary.com>

第939回 例会卓話「人との声が聞こえる街に」

齋藤 りえ 氏

昨年4月まで、東京都北区で議員をさせていただいておりました、齋藤りえです。私は、青森生まれで、今は北区に、9歳の娘と2人で仲良く、楽しく暮らしています。20歳のときからホステスになり、22歳のときに上京して銀座にて働いて参りました。耳が聞こえないハンディはありますが、お客様と向き合いながら「私にしかできない役割」に精進してきました。そして、その役割を政治の現場で果たしていきたいと決意し、東京都北区議会に挑戦し、昨年4月までの4年間、北区議会議員としてお仕事をさせていただきました。現在は、聴覚障がいを持つ当事者として、障がいのある人もない人も、すべての人にやさしい国への実現を目指し、日本全国で活動を行っております。皆様にお伝えさせていただきたいことは、細かい政策に関してではありません。障がいを持っていても、社会で活躍できると障がいの有無などで分ける必要はないという、2つのメッセージです。



1歳で聴力を失った私は、物心ついた頃より障がい者として扱われて、聴覚障がいがあると、就職先も中々見つからず、様々な悔しい経験もしてきました。私は、いろいろな方とお話しするのが、大好きで、「接客業」に就きたいとずっと思っていました。耳が聞こえなくても、「筆談」という方法や、ゆっくりお話しいただくことで、接客業を行えると思っていましたが、健常者の方からは、「耳が聞こえないと接客業なんてできない」とはじめから、決めつけられてしまうこともありました。働ける環境に恵まれれば、活躍出来る障がいをお持ちの方も沢山いると思います。しかし、障がい者というだけで、その機会に巡り会えない方もたくさんいらっしゃいます。私は政治家という立場から、障がいがお有りの方が活躍できる環境を作りたいと思い、立候補を決意しました。耳が聞こえないということが誇りというより、強く生きられる機会を貰ったのかもしれない。そこに理由があるのかもしれない。聞こえない私だからこそ、やるべき事があるのではないのかなと。そこに、生きる喜びと尊さがあるのではないかと。そう考え、北区議会議員を1期4年務めさせていただきました。昨夏の参議院選挙では、そうした想いを全国の仲間みなさんと共有するために、たとえ「無謀だ」と言われても、その姿勢を示すことで、勇気を与えられる人たちがいると信じて大きなチャレンジをしました。結果は、ご期待に応えることができませんでしたが、多くの方々が政治に関心を持っていただく機会、そして素晴らしい出会いが数多くあり、とても大切なチャレンジであったと感じています。私たち、障がい者が見えている景色は、成長段階の児童の景色や、加齢とともに不自由を感じる高齢者の景色でもあると思います。全国各地で多様性の理解を促す活動をしている仲間の皆さん、同志の皆さんの背中を少しでも押してあげられるように、私自身の持ち場で努力を続けていきたいと思っています。区のバリアと制約が存在しています。年を重ねたり、病気になったりすれば、障がいと同じです。障がい者にやさしい社会は、全ての人にやさしい社会でもあると信じています。多様な価値観や存在を受け止め、認め合う、多様性あふれる社会は、想像力を豊かに持つだけでも大きく前進すると思っています。それは、病気のときに気付いたり、年齢と共に気付いたり、それぞれだと思っています。アンテナを日常の中で、少しでも持つことができれば、この社会は、とてもやさしさにあふれる社会に変われると思っています。2020年はいよいよオリンピック・パラリンピック東京大会が開催されます。多くのアスリートそして、観客の方々が、日本中、世界中から、みえられます。その一方で、オリンピック・パラリンピックが単なるスポーツの祭典だけではなく、平和と文化の祭典でもあることを考えると、このタイミングに日本の多様性理解と意識の向上を一気に進めることは、とても大切なことであると考えています。是非、皆さんと共に、その大きなチャレンジ・歩みをしていければと考えております。ご清聴いただき、ありがとうございました。

第940回 例会「イニシエーションスピーチ」

新聞 祐一郎 会員

11月に入会をさせていただいた新聞です。私は、1978年に母親の実家のある富山県で生まれ、その後、神奈川県茅ヶ崎市で育ちました。その後、子供のころからの夢であった弁護士を目指すため、中央大学の法学部に入学しました。弁護士になりたいという気持ちは小学校か中学校くらいから持っていました。映画の影響で、自分の信念に基づいて、立場や権力とかではなく、法律に基づいて人助けをする弁護士の姿に感銘を受けたのがきっかけです。司法試験合格後、現在所属している東啓綜合法律事務所に入所し、2012年には、シカゴにあるノースウェスタン大学のロースクールに留学をしました。ロースクール卒業後には、アメリカの法律事務所や裁判所でインターンをさせていただきました。留学では、アメリカの法制度やアメリカのカルチャーなどに触れ、多くの気付きや学びがありました。その中でも、自分と向き合うことの大切さに改めて気が付けたことが大きかった、と考えております。アメリカのロースクールを卒業すると留学生の多くはNY York barを受けます。おしゃれで楽しそうなお店のようですが、New York bar exam、ニューヨーク州の司法試験のことを意味します。試験は2日間あり、1日目はエッセイが中心で、2日目は、午前3時間（100問）、午後3時間（100問）合計6時間で200問のマークシートの試験を行います。自分が受験をした際、当初は、順調に進んでおり、これは合格するかもしれないなどと思っていたのですが、午後の試験の残り30分か1時間ぐらいのところで、急に頭がぼーっとしてきて、頭が働かない状態になりました。試験後も自分がどのような回答をしたかもあまり覚えておらず、席から立つのもしんどい状態でした。「これは失敗したかもしれない」と思い、少し肩を落としていました。ただ、受験から結果発表までは少し時間がありましたので、気分転換も兼ねてハーバード大学のあるボストンに旅行に行きました。その際、せっかくなので、ハーバードの図書館はどういったものだろうと思ひ、中を見学させてもらいました。中には、夏休みの期間中にもかかわらず、キャレルというデスクに本をびっしり並べて勉強している学生が多くおりました。それを見て、私はすごくショックを受けて、「ああ、すごいなあ、天才と言われる人達は違うんだなあ」などと、さらに気が沈んでしまいました。しかし、その後、帰り道を歩いているときに少し冷静になって考えてみました。「何もしなくて頭がいい、そうであれば、それはそもそも土俵が違うから何をしてもかからない。けれども、頭が良いと言われている彼らだって、あんなに勉強しており、努力という土俵は共通している。彼らと自分の差は努力の差なんだ」と思いました。「これまで自分では頑張っていると思っていたけど、彼らにとっては、自分の努力なんてものは何でもないことであって、普通と考えているレベルが違うんだ」と思うに至りました。幸いにして、試験には合格していたのですが、留学経験を通じて、人のことをみて一喜一憂したりとか、変えようのないことに悶々としたりするのではなく、自分を客観視して、自分と目標との位置を見定め、出来るためにはどうするか、そういう風に物事を考えようと、前向きに考えるようになりました。帰国後も新しいことに挑戦しようということで、ヤフーに出向をし、企業法務の在り方を会社の中から見ることができました。また、現在、青山学院大学の経営学研究科が提供している、途上国の税関職員を受け入れる「戦略経営・知的財産権プログラム」(SMIPRP)において、知的財産権に関する授業を担当させてもらっております。生徒の出身国はそ

の年によって違うのですが、インドネシア、ブータン、アゼルバイジャン、タンザニア等々バラエティに富んでおり、授業は英語で行います。このため、準備は大変であり、チャレンジングな部分も多くあります。ですが、海外から勉強をしに来ている学習意欲の高い生徒への授業は、自分にとって非常に良い刺激となっております。私としても、せっかく日本に来て勉強をしている生徒たちに、何か一つでも自分の国に持ち帰れる経験を提供できればと思い、授業を行っております。これまで多くの人との触れ合いや経験を通じて、自分の背中を押してもらったり、スイッチを入れてもらったりしてきました。自分としても、他の人にとってそういった存在になりたいと思っています。ロータリーの活動は、人とのつながりを通じて、そっと人の背中を押してあげたり、そういった人の心にそっとスイッチを入れるのをお手伝いしたりするような活動だと思っております。今回、ロータリーに入会させていただき、東京後楽のメンバーの一員として、そういった活動のお手伝いを皆さんと一緒にさせていただければと思います。今後ともよろしくお願いたします。ご清聴ありがとうございました。

第941回沖縄地区大会

2020年2月13日

沖縄コンベンションセンター

写真提供尹さん



